



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945 年生まれ。1968 年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004 年に退職。Facebook 上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



お開き(の語源)

宴会が終わるときなどに「ここで『お開き』にします」などというが、「終わり」「散会にする」時に「お開き」とは違和感のある言葉のように感じる。

「お開き」は本来、武士が「退陣する」意で使っていた忌み言葉。「退く」「逃げる」などの言葉を嫌った武士が「ここを明け渡してやる」という意味で「お開き」を使ったのが始まりで、次第に「去る」「帰る」などの意味に転じ、明治時代以降「終わる」「閉じる」の意味で使われるようになったのである。

むすんでひらいて(作曲者は?)

♪♪むすんでひらいて…手をうってむすんで…♪♪、童謡「むすんでひらいて」の作曲者は「社会契約論」「人間不平等起源論」などの著作で有名な18世紀のフランスの思想家・ジャン＝ジャック・ルソーだ。(ただし、作詞者は不明)

1947年小学1年向けに刊行された最初の音楽の教科書「一ねんせいのおんがく」に、新しい歌詞で登場したのが「むすんでひらいて」だった。以来今日まで「むすんでひらいて」は歌い続けられ、童謡、唱歌として定着している。ただ、最近では小学校よりも保育園、幼稚園でのお遊戯歌としての印象が強くなっている



長期投資仲間通信「インベストライフ」

リンカーンがヒゲを生やしたわけ

第16代大統領リンカーンといえば、ヒゲの大統領として有名だが、大統領候補として指名されたときにはヒゲはなかった。大統領選挙の前月(1860年10月)、ニューヨーク州に住んでいた11歳の少女グレース・ベデルが「存在感を示すにはあごひげを生やしたほうがいい」とリンカーンに手紙を送った。そして、リンカーンはそのアドバイスに従ってヒゲを生やし、その結果イメージチェンジの効果もあり(?)選挙に勝利したのである。(写真は wikipedia より)



文房具

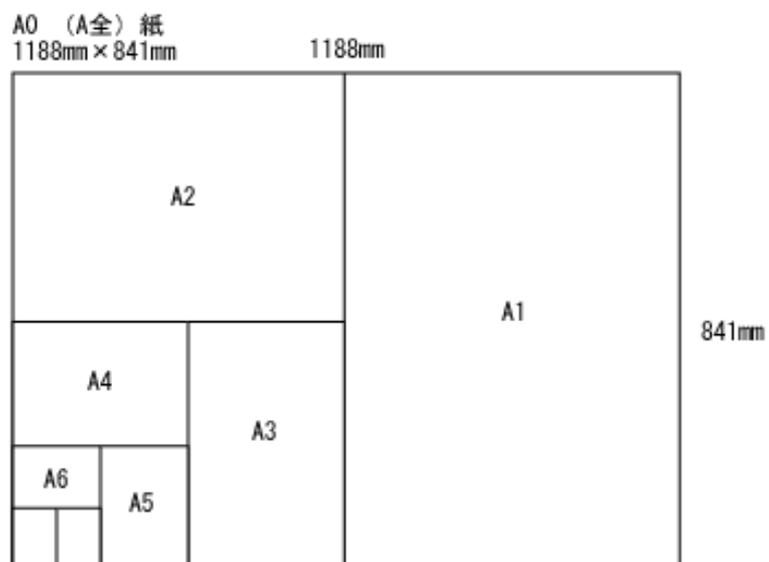
「文房具」という言葉になぜ「房」の字が使われているのか疑問に感じたことはないだろうか。この場合の「房」は「ふさ」ではなく、「部屋」を意味している。厨房、閨房の「房」も文房と同様に部屋の意味だ。「文房」とは読み書きをする部屋、すなわち「書斎」のことだ。よって文房具は書斎で必要な読み書きをするための道具ということになる。

「冷房」「暖房」といえば、室内を冷やす(暖める)というイメージがすぐに浮かぶが、文房具の場合、「房=部屋」とはなかなか結びつきにくいものである。

A判とB判の違い

紙のサイズには「A判」と「B判」がある。A判は国際規格であり、ドイツの物理学者が発案したものである。「A0(ゼロ)」は841×1188ミリで、「A1」は「A0」の半分の大きさ、数字が増えるにしたがって半分の大きさになる。

一方、B判は日本独自の洋紙サイズで、「B0」サイズは





長期投資仲間通信「インベストラ이프」

1030×1456ミリになっている。この洋紙は江戸時代に徳川家が使っていた美濃判と呼ばれる採寸法が起源になり、明治政府に引き継がれたものである。

日本では、国際規格のある印刷物にはA判が採用され、1980年代まで(国の文書の)約90%にB判が使われていたが、国際規格に統一する動きから現在では圧倒的にA判が多くなっている。(追記)関ヶ原の戦いの折、徳川家康が采配を美濃和紙職人に作らせた。その采配で勝利したため、縁起のいい紙ということで、美濃和紙は江戸幕府御用達になったという。

DHC(社名の由来)

DHC といえば化粧品、サプリメント(健康食品)の大手企業だが、元々は昭和47年に大学の研究室を相手に洋書の翻訳委託業を行うことに創業された会社である。昭和55年頃から化粧品事業を展開するようになり、今では売上高1056億円(2017年7月期)の大手企業に成長している。

社名の「DHC」は創業時の「大学翻訳センターDaigaku Honyaku Center」の略で、今でも翻訳業務をおこなっている。また、ビールの製造販売、ヘリコプター事業、介護事業、ホテル事業、映像事業、漁業など多角的な経営を展開する会社になっている。